

【福井県】大野市農業再生協議会



協議会の概要

申請件数・確認面積：

16,000件、2,145ha

主な申請品目：大麦、大豆、そば

協議会事務局：市役所、再生協議会、JA

経安主担当者：市職員1名、

再生協議会3名

JA1名

福井県大野市



現在の現地確認方法の導入経緯

・紙地図を使用して現地確認を行っていたことから、**地区農業者の準備に係る負担が大きいことが課題。**

・R3年度から紙地図を使用せず、**タブレット画面上の地図を用いた現地確認を試験的に実施。**

・実証の結果、**紙地図を用いずとも現地確認を行うことが可能であると分かった。**

⇒紙地図を廃止し、**タブレット地図のみで現地確認することにした。**

現地確認の方法（対象筆数：16,000筆）

	導入前（R2年度まで）	現在（R3年度から）
方法	目視（立札、 紙地図 、野帳）	目視（立札、 タブレット地図 、野帳）
確認者	地区役員（農業者）、市役所等	地区役員（農業者）、市役所等
時期・回数	5月、7～10月、追加で数回	5月、7～10月、追加で数回
手順	<p>※市役所等…市</p> <p>①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と地区役員への配布（市）</p> <p>②作物ごとに色分けをした紙地図を準備（地区役員）</p> <p>③紙地図を基に1筆ごとに目視で確認、立札回収（地区役員）</p> <p>④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地は後日再確認（市）</p>	<p>※市役所等…市</p> <p>①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と地区役員への配布（市）</p> <p>②申請データをタブレット地図に落とし込み（市）</p> <p>③タブレット地図を基に1筆ごとに目視で確認、立札回収（地区役員）</p> <p>④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地は後日再確認（市）</p>
費用	消耗品費：878千円（紙地図等）	消耗品費：354千円（紙地図等） システム費用：290千円 計644千円

導入の効果（メリット）

- ・地区役員の**紙地図を準備する作業がなくなった。**
- ・現地確認時のタブレット地図と併せて**電子地図を使用**するようになったことで**作業効率化に繋がった。**

～手塗りの地図～



～電子地図～



課題・問題点（デメリット）

- ・タブレット地図内に手書きでメモを書き込むことができないなど、**細かい資料作りが難しい。**
 - ・日常的にスマートフォンを使用していないことが要因で、タブレットや電子データをうまく扱えない場合がある。
 - ・システムの運用の**ランニングコストが掛かる。**
 - ・確認作業の手間、時間は変わっていないため、確認作業を省力化する取り組みを行う必要がある。
- 立札の省略**、一部作物では**衛星写真を用いた作付判定**等を検討。